

むきばんだ花だより 9月

2016. 9. 3



◎ミゾナオシ(味噌直し・小槐花) マメ科 ヌスビトハギ属

常緑小低木 別名 ウジコロシ・ウジクサ・ミソクサ、名前の由来：防腐効果のある葉や茎を味噌や醤油の中に入れておくと味が良くなるとか、味噌が腐った時に味が戻るといことから。○山地の林縁や路傍に生育し、樹高30～90cmの草状低木。葉は3小葉で、長小葉は側小葉よりやや大きく狭楕円形、表面は光沢がある。葉柄は長さ1～4cmでごく狭い翼がある。花は淡紅色を帯びた白色で黄色のぼかしの入った小形の蝶型花を開く、長さ5mm程。豆果は線形で長さ5～7cm、平たく4～5個の節がある。表面に毛があり衣服に附着しやすい。味噌に蛆がわいた時、この葉を入れると、蛆が死ぬので「ウジコロシ・ウジクサ」の名が付いた。★徳島大学大学院の柏田教授のグループは、ミゾナオシの和名の由来を研究し科学的に実証し、「日本生薬学会第60回年報」で発表されました。○マメ科のエンジュの花(槐花)に似ていることから生薬名「小槐花」・「セイシュコウ(青酒紅)」として産後の腹痛に、腫物や打撲に、また食品の防腐に、利用されました。●珍しい名前のとおりのことをどのようにして知ったのか驚くばかりですね。!

(8月の歩く会で発見していましたが花が咲くのを待ち、確認して発表しました。)

★撮影日：2016,8,6/9,3 ★撮影場所：洞ノ原東丘陵先端堂畑奥林蔵。



◎ヒヨドリバナ(鴨花) キク科・キク亜科・ヒヨドリバナ属

名前の由来：ヒヨドリが鳴く頃に開花することから、この和名になったと云われますが、鴨の鳴き声をよく聞くのは晩秋から冬で少し無理があり、命名の由来はよく判らないが本当のところと云われます。○多年草 林道の脇、草原など比較的日当たりのよい場所に生育する。高さ1～2mにもなる、葉は対生し短い葉柄をもつ。形は卵状長楕円形。頭花は、まばらな房状につき小数の白色(まれに淡紫色)筒状花を咲かせる。★フジバカマに似ているが、フジバカマの葉は3裂するのに対してヒヨドリバナは裂けないので区別できます。またフジバカマは、中国原産の帰化植物で芳香や薬効があり、万葉集の中で山上憶良が詠んだ秋の七草に入っています。近年自生種がほとんど見られなくなると云われます。○ビールズ病罹患したものは黄色い網目状の模様が出ています。○アサギマダラ蝶の主な吸蜜植物の一つです。

★撮影日:2016,9,3 ★撮影場所：むきばんだ公園入口左側空地



◎ツルリンドウ(蔓竜胆) リンドウ科・ツルリンドウ属

蔓性多年草 名前の由来：リンドウに似た蔓性である事に由来する。漢名の(竜胆)は根が非常に苦く、熊の胆よりもっと苦いことから、熊よりランクの高い竜(架空の動物)の胆の苦さを当てられました。○低山～亜高山の樹林下に生える多年草。蔓が地面を這ったり草木に絡んで長さ40～80cmにもなり、葉腋に淡紫色の鐘状の5裂した花を付けて、秋、紅紫色の果実が熟します。花の大きさに比して実は大きな液果でラクビーボール型で美味しそうな綺麗な実ですが生食はできず、果実酒にされるそうです。

★撮影日：2016,9,3 ★撮影場所：むきばんだ公園入口左側



◎ ツククサ(露草) ツククサ科・ツククサ亜科・ツククサ属

一年生植物。別名：ボウシバナ(帽子花)・古名：ツククサ(着草)

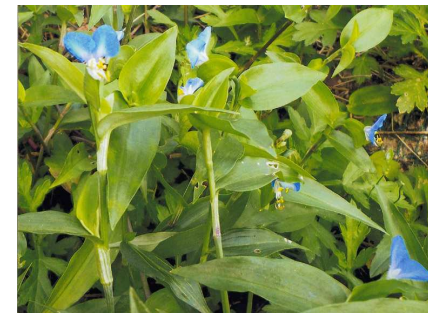
名前の由来：朝咲いた花が曇るむことが朝露を連想させ「露草」と名付けられたと云う説があります。○ツククサは昔から身近な草であったので「植物和漢異名辞林」と云う書物には37もの別名が載っているそうです。「帽子花」は、花を包むような半円形の二つ折れになった編みがさの様な苞の形から。古名の「着草」は、昔、布や和紙を青色に染めるのにツククサの花の絞汁が使われていました。「中国から藍染などの技術が輸入されると、光や水に溶けやすいツククサ染めは衰退しました。しかし、逆に、その性質を利用して、友禅などの染色の下絵を描く染料と利用されています。」○生薬に鴨跖草(おうせき草)花の季節に全草を採取水洗し天日で乾燥したもの。＝解熱・利尿・かぜ・熱性下痢・心臓病に用いられます。○生の茎葉をよく洗いかく茹で、サラダ、和え物にします。アクが少なく美味しく食べることが出来ます。○「万葉集」には月草・鴨頭草(つきくさ)を傍さの象徴として詠まれたものが多く、また俳句においては、露草、月草、螢草などの名で、秋の季語とされています。

★撮影日：2016,9,3 ★撮影場所：むきばんだ公園入口左側空地

◎くず(葛) マメ科・クズ属・別名 ウラミグサ(裏見草)

名前の由来：奈良県の吉野川上流に國栖(クズ)と呼ばれる地域があります。昔国栖の人達が草の根から澱粉を取り里に売りに来たので自然に澱粉を「クズ」と呼び、この植物を「クズ」と呼ぶようになったと云われます。別名：「裏見草(うらみぐさ)」は、葉が風に翻ると裏の白さが目立つことから。平安時代には、「裏見」を「恨み」に掛けた和歌も多く詠まれたそうです。◆秋の七草の一つで、日本全土、朝鮮半島、中国大陸、北米にまで帰化している程です。○山野、荒地に群生し繁殖力旺盛な大型の多年草です。○「くず」は紫色の綺麗な花を付け、葛餅、くずきりなど和菓子の材料や漢方薬(葛根湯・桂枝加葛根湯) 解熱・血行促進下に、また新芽、若葉を挿んで山菜に利用するなど、くずは万能とまで言われていましたが現代では雑草の中でも最も厄介な植物で駆除するのに苦労すること有名です。

★撮影日：2016,9,3 ★撮影場所：むきばんだ公園入口左側空地



◎ イタドリ (痛取・虎杖 (いたどり))・タデ科・ツバキ目

多年生植物・雌雄異株 別名: スカンボ・イタンボ・ドングイ・スッポン・ゴンパチ・エツタン。ただし、スイバをスカンボと呼ぶ地方もある。
 名前の由来: 痛取り (イタドリ) の意味で、痛みを取るからとされています。
 ○東アジア原産種で路傍や荒地に生育し、やや湿った所を好み、攪乱や崖崩れ跡などに繁茂する先駆的外来種ワースト100選定種の一つです。
 ○若い茎は柔らかく、新芽を山菜として食べる。高知県では「イタズリ」と言い、皮を剥ぎ、塩もみをして炒め、砂糖、醤油、酒、みりん、等で味付けし、麩節を振りかける調理法で食べられています。★冬、地上部が枯れた頃根茎を採取し天日で乾燥したものを虎杖根(こじょうこん)と云い 民間薬に使われる。また、若葉を揉んで擦り傷などに当てると止血作用があり、これが「イタドリ」と云う和名の由来であるそうです。

★ 撮影日: 2016,9,3 ★ 撮影場所: むきばんだ公園入口左側空地



◎ センニンソウ (仙人草) キンボウゲ科・センニンソウ属

蔓性常緑多年草 別名: ウシノハコボレ・ウマクワズ、**有毒植物**

名前の由来: 果実から延びる白い毛を、仙人のヒゲに見立てたもの。
 ★ 別名の「ウシノハコボレ・ウマクワズ」は「**有毒植物**」で、牛が牧草と一緒に食べると歯が抜けてしまうことから。また毒草で馬も食わないことから。
 ○ 日当たりのよい山野に多く見られ、花は茎の先端付近の葉腋から三出状の散房花序を出し直径2~3cmで、4枚の白い花弁に見える萼片は十字型に上向きに開き、花が沢山集まって咲くので遠くから「センニンソウ」であることがよく判ります。センニンソウ属は世界中に300種、日本には20種以上あるそうです。それに類似の花の美しい外来種が、「クレマチス」と呼ばれています。
 ○ 仙人草は生薬で和成靈仙(わいれいせん)と云い扁桃腺炎の治療に用いられますが、**毒性が強く、民間では絶対に飲用してはいけません。葉や茎の汁に触れると、皮膚炎を惹き起こします。誤って食べると胃腸炎や嘔吐を起し、多量に食べると、生命の危険もありますので注意してください。**
 ○ 花言葉:「安全」・「無事」・「あふれるばかりの善意(美しい心)」だそうです。
 ~有毒植物なのに、安全・無事と云う花言葉は不思議ですね。見た目は虫も殺さない、雰囲気はただよわせるからでしょうか。?

★ 撮影日: 2016,9,3 ★ 撮影場所: むきばんだ公園の途中 (晩田 31 号墳付近)



◎ キツネノマゴ (狐の孫) キツネノマゴ科・キツネノマゴ属

別名: キツネノタマゴ (狐の卵) ・メグスリバナ (目薬花)

・カグラソウ (神楽草) 一年草

名前の由来: よく分かっていない。花序形が、花が咲いた後に伸びるのがキツネの尾の線だとか、花の形がキツネの顔を思わせるからなどの説もあるが根拠に乏しい。○道端に生える小柄な草である。やや湿った所を好む。夏に赤紫の花を付ける。平安時代に著された薬草の書物『本草和名』にもでてくる、古くからの植物です。腰痛、風邪に薬効があり生薬名「藤床(シャクジョウ)」と云います。若い葉は茹でて食べることが出来ます。○ 花言葉・誕生花:「可憐の極度」、「女性の美しさの極致」、「この上なくあなたは愛らしく可愛い」★ 撮影日: 2016,9,3 ★ 撮影場所: 妻木山地区



◎ センボンヤリ (千本槍) キク科・センボンヤリ属、多年草

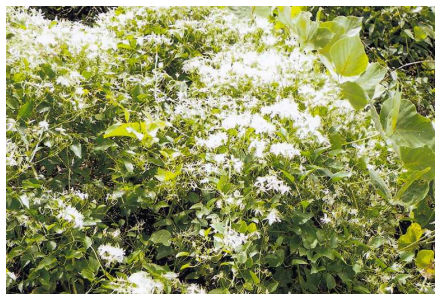
別名: ムラサキタンポポ (紫菀公英) ○ 山地や丘陵地の比較の日当たりの良い所に生育し、花は春型と秋型の2回見られる珍しい野草です。春型はロゼット状の根出葉の中心から10cm位の花茎を伸ばし白色から赤紫色の径1.5cm位の頭花を付ける。「ムラサキタンポポ」の別名はこの春型に由来する。秋型は花茎が30~60cm位(むきばんだ公園の現地はやや日陰のため草丈が短く、15~20cm位)になり先端に、筒状花からなる閉塞花を1個付ける。成熟すると淡褐色の冠毛が球状(タンポポの花の縁に)に付く。葉は倒槽円形。この花茎が林立し、小さいながら千本槍の様相を見せる。秋型の花茎の姿が「センボンヤリ」の由来です。○ 花言葉:「希望」、「辛抱強さ」、「神秘」、「悲しみ」

★ 撮影日: 2016,9,3 ★ 撮影場所: むきばんだ公園入口通路左側



★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷺見寛幸先生 (鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」



◎ ツリガネニンジン (釣鐘人参) キキョウ科・ツリガネニンジン属

宿根性多年草 別名: トトキ・ツリガネソウ~「トトキとは若苗のこと」
 名前の由来: 花が釣鐘状で、根が朝鮮人参に似ているところから。
 ○ 葉は茎に3~5枚輪生し、稀に互生または対生する。葉の形は楕円形から披針形で、やや厚みがあり艶がない。花は淡青紫色・白色の下を向いた鐘形で、数段に分かれて茎に輪生する枝の先に花を付ける。花柱が花冠から突出している。
 ○ 若い芽は、食用(和え物、お浸し、油炒め)、太い根茎はキンピラ、和え物、粕漬け、に利用されます。また根は外皮のコルク層を剥いで乾燥させたものが生薬の沙参(シャジン)で去痰(きよたん)作用があり、たんきり、のどの痛みを止めるのに効果があります。花言葉:「詩的な愛」・「誠實」・「優しい愛情」

★ 撮影日: 2016,9,3 ★ 撮影場所: 妻木山地区 遺構展示館横 斜面